

陳情第2号

泊原発再稼働に対して慎重な判断を求める意見書の提出を求める陳情書

(陳情趣旨)

北海道電力・泊原発3号機は4月30日、原子力規制委員会から規制基準に事実上「適合」との判断が示されました。約1か月間の意見公募を経て、今夏にも正式合格とする見込みです。

北電は2013年7月、福島第一原発の事故後に定められた新規規制基準施行と同時に泊原発1～3号機の審査を申請しましたが、同時期に申請した他の原発が1～4年以内に主な審査を終えているのに比べると際だって長くなっており、1、2号機の審査はなおも続いています。長期化の要因は、敷地内を走る11の断層が大地震を引き起こす活断層であるか否かの評価の難しさにありましたが、現地の海岸沿いには、能登半島地震に影響を及ぼしたような未知の巨大な海底活断層があるとして、専門家が審査のやり直しを求めており、安全性については、いまなお懸念が残されています。

規制委の「適合」判断を得て、北電は、道内千歳市で次世代半導体の国産化を図るラピダスが量産を開始し、電力需要が高まる2027年の再稼働を目指しています。しかし、東日本大震災による福島第一原発の災害は、事故収束への見通しも立たないだけでなく、原子力発電は、ひとたび重大な事故を起こせばその被害は広範囲に及ぶという、他の事故とは全く異なる危険な実態を明らかにしました。

よって、再稼働に不可欠な地元同意については、泊原発近隣自治体のみならず北海道全体の問題としてとらえなければいけません。泊原発再稼働の可否に対して、規制委の審査の枠外にある避難計画の有効性なども含め、北海道知事および道議会には、熟議を重ねた上での慎重な判断を求めます。

(陳情事項)

泊原発再稼働については、北海道全体として地元同意を得るため、慎重な判断を求めるよう意見書を北海道知事と北海道議会へ提出してください。

令和7年6月9日

恵庭市議会

議長 川 原 光 男 様

陳情者 生活クラブ生活協同組合恵庭支部

氏名

住所